姶良歴史ボランティア協会広報誌　第25号　　発行日：平成27年6月18日(木)

あいらの歴史と物語

発行責任者：姶良歴史ボランティア協会
会　長　竹之下　洲　一
編　集　者：広報部　松　下　澄　行

連絡先：〒899-5421　鹿児島県姶良市東餅田498　姶良市歴史民俗資料館　TEL 0995(65)1553

蒲生の史跡めぐり

城野神社仕明地

恒吉　一洋

「仕明地」とは「開墾地」のことです。

江戸中期のころ、木津志村の住人が、城野神社の社殿が古くなったため、藩に修理の補助を願い出たところ却下されました。

そこで、村人は村内の木場川内にある原野を仕明け(開墾)して田畑を開き稲作し、その収益で修理することを決め、藩の許可を受けました。元文2年(1737)のことです。

山奥の原野開墾のため、蒲生衆中(郷士)のうち長男を除く二男や三男などのほか、神職に仕える社人、野町の商人、百姓、中宿者、下人など、延べ約2,530人の人々を繰り出して仕明けに取りかかりました。突貫工事の結果、原野ではありましたが、仕明け作業は短期間で終了しました。

場所や日当たりの関係などで、仕明けされた土地の評価額は、当初9石2斗6升2合5勺でしたが、最終的には9石8斗8升7合と決まりました。

蒲生郷では、この仕明地で収穫した米から藩への上納分を支払い、残りを村人に貸し付けて年々利益がもたらされるようになりました。

社殿の改築には多額の費用が必要なため、すぐには取りかかれませんでしたが、仕明けが許可されてから12年後の寛延2年(1749)11月にようやく修理に取りかかり、同3年(1750)正月に普請が終了し、2月に遷宮式を執り行うことができました。

大変な努力と苦労の伴う事業でしたが、仕明地のおかげで所期の目的を達成できた人々の喜びが想像できるようです。

蒲生の史跡めぐり

佐々木氏一族流浪の旅

坂元　清美

佐々木氏は、肥前の藩主有馬氏の家老でした。慶長 17 年(1612)キリシタン大名有馬晴信が処罰された後、藩主の地位に就いた直純は延岡藩へ転封になり、佐々木氏もそれに従いました。

その後有馬氏は越後糸魚川、越前丸岡へと国替えになりました。ところが、佐々木氏は丸岡で人員整理にあいました。

佐々木氏は薩摩藩への仕官をめざし、丸岡から一族 20 余名を引き連れて９年間旅を続けます。その後、佐土原・高岡などで７～８年が過ぎ、ようやく元禄 15 年(1702)薩摩藩への定住がかない、蒲生に居住することになりました。

蒲生法寿寺墓地の一角に建つ墓石群は、佐々木氏一族の団結の強さを示しているようです。

漆の飯留神社

濱口　純則

創建は定かではありませんが、弘治３年(1557)蒲生範清が祁答院方面に退去したのち、島津義久が衰微していた飯留大明神の再興に着手し、天正 18 年(1590)正月 28 日に棟上げしたものと思われます。

伝承によると、この神社の祭神豊受姫命は、遠い昔川上から稲穂に乗って漆の飯留渕まで流れ下り、この地に留まり稲作を広めた神といわれます。時がたち風水害のため破壊され、場所を変えて合祀され、明治４年(1871)に現在の狭小な高台に祭られました。

横尾口古石塔群

竹之下　洲一

横尾口の蒲生城枡形跡近くに古石塔群があります。江戸時代まではこの地は小丘で、その頂上に観音堂が建てられていました。明治時代になると観音堂は壊され、小国神社が建立されました。昭和 45 年(1970)12 月にこの地を調査された蒲生史談会員野添求氏は、この神社の周辺には七連板碑や寄進塔があり、中腹には五輪塔群が、入口参道には二尊仏石像などがあったことを報告しています。

その後横尾口団地造成に伴い、丘が取り除かれ平地になり、小国神社にあった古石塔群や蒲生城枡形跡周辺の板碑や五輪塔の残欠が、まとめられ整理・保存されています。

七連板碑の上部には梵字が、下部には墨書文字があります。五輪塔の一基は復元されています。さらに、二尊仏石像には天正 19 年(1591)と思われる年号があり、山伏二体を彫刻しています。それぞれが多くの示唆を与えてくれる古石塔です。

赤塚源太左衛門の墓（永秀庵墓地）

迫村　あけみ

赤塚源太左衛門は、弘治２年(1556)からの蒲生合戦に、島津貴久の家臣として15歳で従軍したのを初めとし、その後は島津義弘の武将として、肥後・日向・豊後各地の合戦に従軍し、多くの武勲を立てています。

文禄４年(1595)に、義弘の命に従い蒲生城守備のために城内に移りました。

慶長５年(1600)関ヶ原の戦いでは、義弘夫人の供として京都におり、夫人を救出後、敵中突破をしてきた義弘の船に同乗して帰国しました。

その後義弘は、東軍が島津征伐に攻めて来るという風聞に、源太左衛門らに蒲生城の補強を命じ新城（荒平陣）を構築させ、源太左衛門は慶長15年(1610)まで新城御番として勤めました。

義弘の供として勤めた44年間で身に受けた傷は11ケ所、打ち取った首は26人に及んだといわれます。寛永10年(1633)92歳で死亡しました。

塞ノ神碑跡

橋木　雅晴

蒲生町北には、古来サヤン瀬戸と呼ばれた交通の要地がありました。往古には大隅国府と薩摩国府を結ぶ駅路(古代官道)が近辺を通っていたと思われます。この三叉路には享保19年(1734)に建てられた男女２体を刻んだ一石双体の塞ノ神石碑がありました。

昭和６年建立
道　標

しかし昭和61年(1986)頃に行方不明となり、現在は昭和６年(1931)行幸記念時建立の道標だけが残っています。

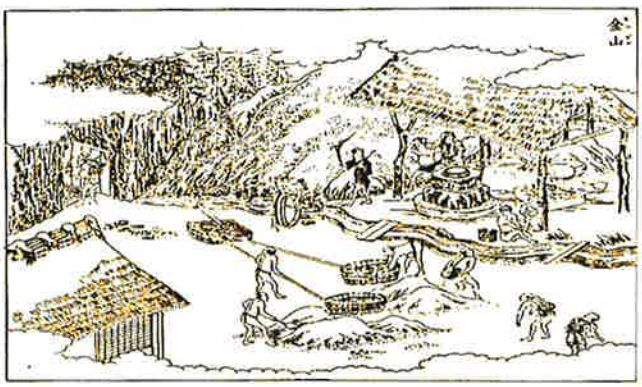
塞ノ神は集落境の峠の上や、瀬戸という山を切り開いた道端、あるいは橋のたもとや三叉路などに祀られ、道路の邪霊・悪鬼の類を防ぎ、通行人や集落を守護するために建てられました。全国的に道祖神として広く分布していますが、県下には数が少なく現存すれば希少な文化財として注目されたと思われます。

漆の金山

恒見　勝則

漆の赤仁田川で砂金が発見されたのは元禄年間(1688～1703)と伝承されています。

『蒲生郷土誌』からは、漆には大良鉱山・高嶺鉱山漆鉱区・高嶺鉱山高嶺鉱区などの金山があったことがわかります。従来の坑道や諸設備は、昭和18年(1943)の鉱山整備法により閉鎖され、ほとんどの坑口も塞がれ、跡は植林地や田畑となっています。



薩摩藩は、直営として大良鉱山を嘉永年中(1848～1853)に３年間稼動しました。それ以来途絶えていた金山経営も明治25年(1892)から再び進められ、坑道・動力・精錬法も改善し生産額も増大しました。総生産量は明治28年(1895)から昭和18年(1943)まで830～930kgとされています。昭和10年代金山景気全盛期には、漆・蒲生の町にも経済効果が及び、人々の生活を潤したとあります。(漆小学校の生徒数480名という記録もあります。)

反面、赤仁田川には長年の青化法精錬の廃液や汚水が流れ込み、魚も住めず、流域の田も昭和30年(1955)頃まで影響を受けましたが、現在は清流となり、稲作も普通にできるようになっています。

加治木郷土館所蔵品紹介

南洲翁揮毫の「敬天愛人」

宮内　伸一

明治６年(1873)、鹿児島に帰郷した西郷らは、翌年６月私学校を創設します。加治木でもこれに呼応して、明治８年(1875)に川上親春・中間直助などが、現在の柁城小学校の地に私学校の分校を設立します。

当初の生徒数は 100 人足らずだったといわれていますが、明治 10 年(1877)の西南の役の頃には 800 人余りまで増えました。

西郷は加治木に分校が設立されたことをとても喜び、その記念にこの額を贈ったとされています。縦書きの「敬天愛人」の額は珍しく、極めて貴重なものといわれています。西南の役後、招魂社に掲示されていましたが、昭和５年(1930)から関係者の協議により柁城小学校で保管されていました。現在は加治木郷土館に保管・展示されています。

平成 27 年度歴史ボランティア協会活動計画

6/11(木)	研修視察「えびの市」	(研修部)
6/18(木)	広報誌 25 号発行	(広報部)
7/ 9(木)	体験学習支援	(企画部)
8/20(木)	夏季特別展支援	(企画部)
9/10(木)	近隣市町巡見(霧島市国分)	(研修部)
10/20(火)	取材打ち合せ・編集会議	(広報部)
10/31(土) 11/ 1(日)	国民文化祭「歩き・み・ふれる歴史の道」に参加・協力	(全　員)

姶 郷（あいきょう）

別 府 川

松 下　澄 行

姶良市の矢止岳を源流とし、漆、米丸へ注ぐ川は「後郷川」、蒲生町の西端から町の南側を流れている川は「前郷川」と呼ばれ、この二つの川が蒲生町下久徳で合流して「蒲生川」となります。また、矢止岳を源流とするもう一つの川があります。北山の山間部を流れ、山田の町裾を通る「山田川」です。

「蒲生川」と「山田川」は帖佐の中津野で合流し名を「別府川」と変え、加治木町と境をなして錦江湾に注ぎます。総延長約 24 kmの二級河川です。

縄文海進期には、蒲生町内まで海が大きく入り込み、その後後退して、弥生時代以降今の川の形になったといわれています。

この川を地元の人は「びゅうがわ」とも呼び、また地域学校の校歌にも歌われている親しみのある川です。

歴史用語解説

竹之下　洲一

『中宿者』

籍は本籍の郷や鹿児島に置いたまま、一時的に他郷に寄留している武士(郷士・城下士)のこと。寄留の理由は多くが経済的困窮で、一種の出稼ぎの武士である。貯えができたら本籍に復帰した。

(注：中宿は、「なかやど」とも読みます)

編集後記

今年は、鹿児島県で国民文化祭が開催されます。姶良市でもいくつかの催しがあります。市の文化財係から私共が所属する歴史ボランティア協会にも協力要請がありました。内容は「歩き・み・ふれる歴史の道」の史跡ガイドです。協会員全員で協力し成功させていくことを確認しています。

今後とも皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。